

移動動作に制限がある患者の多床室における生活ストレス

Analysis of stress built up in patients staying in shared bedroom with difficulty in transfer

東3階：守屋 綾子・二木 朗江

塩竈市健康福祉部健康課：赤間 由美

山形大学医学部看護学科：小松万喜子

山形大学医学部附属病院：黒田 成子

〈要旨〉

入院は患者に多くのストレスを与え、さらに多床室に入院し移動動作に制限のある患者は、同室者の行動や関係からもストレスを感じていることが推測される。多床室入院患者用に修正した病室環境におけるディストレス測定尺度でアンケート用紙にて回答してもらい、調査した。

移動範囲が病棟内のみに限られている者は、病室内を自由に動ける者に比べて、自分のベッドサイドの灯り、いびき、咳や体動、排泄行為を気にしていた。また、ベッド上で過す時間が短い者は、長い者よりも、部屋の狭さや湿度、医療器具や物音、同室者の排泄行為が気になっていた。これらの結果から移動動作に制限がある患者は「気にするストレス」を、制限が少ない患者は「気になるストレス」を感じながら生活していることがわかり、こうした患者が抱えているストレスを理解し、調整をはかっていくことが必要と考える。

〈Key words〉

多床室、生活ストレス、移動制限

I. はじめに

入院は環境の変化、治療、病気に関する不安などにより、患者に多くのストレスを与える。多床室に入院する患者は、部屋の狭さなどの物的環境ばかりでなく、生活を共にする同室者の行動や関係からもストレスを感じていることが考えられる。ことに整形外科疾患患者では、移動動作に制限が多く、また、移動器具を使用するために、病室の狭さなど環境へのストレスが強いのではないかと考えられる。そこで本研究では、多床室の環境に対して患者が感じる生活ストレスと、移動動作の制限の状態との関連を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1) 調査期間

平成11年7月15日から10月21日

2) 調査対象

Y大学病院とS大学病院の整形外科多床室（4床室、6床室）に入院する患者で、質問紙に回答でき、調査に同意が得られた患者97名を調査対象とした。Y大学病院入院患者51名、S大学病院入院患者46名。6床室63名、4床室34名。

3) 調査方法

(1) 手続き

調査依頼状に沿って病室で調査目的を説明し、同意を得た後にその場で質問紙を配布し、30分後に回収に伺うことを説明した。回収時に、記入もれがないか確認し補足した。

(2) 調査内容

多床室での生活において感じるストレスを測定する尺度として、病室環境におけるディストレス測定尺度¹⁾を多床室入院患者用に修正し、16項目からなる生活ストレス測定尺度を作成した。ストレスには、「気になるストレス」と、自分が同室患者に対して気を遣うことで生じる「気にするストレス」があるため、本研究では、「生活ストレス」を「気になるストレス」と「気にするストレス」の両面から測定することとし、「気になるストレス」の測定尺度16項目のうち、温度、湿度、部屋の狭さ、病室内の医療器具、物音を除いた11項目に対応する「気にするストレス」11項目を作成した。これを、非常に気になる・非常に気にするを5点、全く気にならない・全く気にしないを1点の5段階評価で測定し、ストレスを強く感じるほど得点が高くなるようにした。

併せて、性別、年齢、入院経験の有無、入院期間、手術経験の有無、手術予定、痛み、移動器具使用の有無、移動範囲(病院内自由か病棟内のみか)、ベッド上で過す時間(短い：リハビリや散歩などで不在が多い、長い：終日、またはトイレ以外は殆どいる)等を調査した。また、診療記録、看護記録より、疾患名、入院日数を調査した。

4) 分析方法

統計用ソフト HALBAU Ver5.1 を使用して統計処理をおこなった。比率の差の検定にはカイ2乗検定をおこなった。独立した2群の差の検定には Wilcoxon の U 検定、対応のある2群の差の検定には Wilcoxon の符号付順位和検定、3群以上の差の検定には Kruskal-Wallis 検定をおこなった。相関の検定には Spearman の順位相関係数を求めた。なお、2施設間、4床室・6床室間で、有意差がみられなかったことから、本研究における分析は2施設の対象を全体として扱うこととした。

Ⅲ. 結果

1) 対象の概要

男性36名、女性61名で、平均年齢 49.5 ± 18.2 歳。平均入院日数 28.0 ± 36.0 日で、移動器具を使用している者は54名、使用していない者は35名、歩行器5名、杖14名。移動範囲は、病棟内31名、病院内64名、無回答2名で、ベッド上で過す時間が長い者28名、短い者68名、無回答1名であった。

2) 生活ストレスの状況

「気になるストレス」の平均得点が高い順に図1に示した。「気になるストレス」では「温度」が最も高く、次いで「同室患者の体調」「同室患者のいびき」「湿度」などであった。「気にするストレス」は、「自分の風邪」「自分の排泄行動」「ベッドサイドの灯り」「テレビの光」などが高かった。「気になるストレス」「気にするストレス」では、「同室者との会話」を除いた全ての項目において、「気にするストレス」の方が有意に高かった。

3) 生活ストレスと関連要因

(1) 移動器具の使用：移動器具を使用するものは未使用者よりも同室患者の体調が気になり ($P < 0.05$)、自分のベッドサイドの灯りを気にしていた ($P < 0.05$)。

(2) 移動範囲：移動範囲が病棟内のみの方は病院内の者より、ベッドサイドの灯り ($P < 0.01$)、

自分のいびき ($P < 0.01$), 咳や体動 ($P < 0.01$), 排泄行為 ($P < 0.05$) を気にし, 同室患者との会話は気にしていなかった。(表1)

- (3) ベッドにいる時間: ベッド上で過す時間が長い者は短い者よりも, 湿度, 狭さ, 病室内の医療器具, 物音, 同室者の排泄行為が気になっておらず ($P < 0.05$), 自分の風邪を気にしていた ($P < 0.05$)。

IV. 考 察

1) 生活ストレスの状況

「気になるストレス」高得点の項目は「温度」「湿度」など室内気候に関するもの, 「風邪」「咳や体動」「体調」など身体状態に関するもの, 「物音」など音に関するものであった。「気にするストレス」も「風邪」「体調」は高得点であったが, 「排泄行為」や「ベッドサイドの灯り」「テレビの光」などの光に関する項目が「気になるストレス」に比べて高くなっていた。「温度」「湿度」などは自分で調整が比較的難しいものであり, 患者は調整困難なストレスを我慢していることが多いのではないかと考えられる。光に対するカーテンの工夫などとあわせて基本的な環境調整が大切であろう。また, 身体状態に関する項目のストレスが「気になるストレス」「気にするストレス」ともに高いことから, 同室患者への気遣いと, 自分の健康への影響の心配という両方の気がかりがあることが考えられる。患者は自分の健康状態に敏感になっていることが推測され, 看護者が患者に接する際には, 周囲に不安や心配を与えないような対応や予防的な看護技術の実践が求められる。

「気にするストレス」の方が「気になるストレス」よりも得点が高く, また, 「気になるストレス」を強く感じている人は「気にするストレス」も強く感じていた。これは入院生活のなかで自分が感じているストレスを他者に与えないように, 自分も入院環境をできるだけストレスの少ないものにしようと配慮している結果ではないかと考える。

2) 生活ストレスに関する要因

移動動作の制限と生活ストレスの関連では, 「気になるストレス」より「気にするストレス」で有意差がみられるものが多く, 移動動作に制限がある患者が, 周囲に気を遣いながら, 生活していることがうかがわれた。ベッド上で過ごす時間が長い患者のほうが, 物的環境へのストレスが低かった理由について本調査結果のみから明言することはできないが, 移動動作制限が回復段階に左右されることから, 急性期などで周囲が気になる余裕がないためとも考えられる。

V. 結 論

- 1) 「気になるストレス」としては, 温度・湿度・体調・風邪などの身体状態に関するストレスが強かった。「気にするストレス」でも同様であったが, 特に自分の排泄行為やベッドサイドの灯りなどを気にする者が多かった。
- 2) 「気にするストレス」の方が「気になるストレス」より強く, 「気になるストレス」を強く感じている者は「気にするストレス」も強く感じていた。
- 3) 移動動作制限のある者はない者より同室者や自分の体調に気を遣い, 温度や狭さなどの物的環境のストレスよりは, むしろ, 自分が同室者に与える影響を気にしていた。

引用文献

- 1) 上野栄一・高間静子：病室環境におけるディストレス測定尺度作成の開発；富山医薬大医誌，11(1)，65-68，1998.

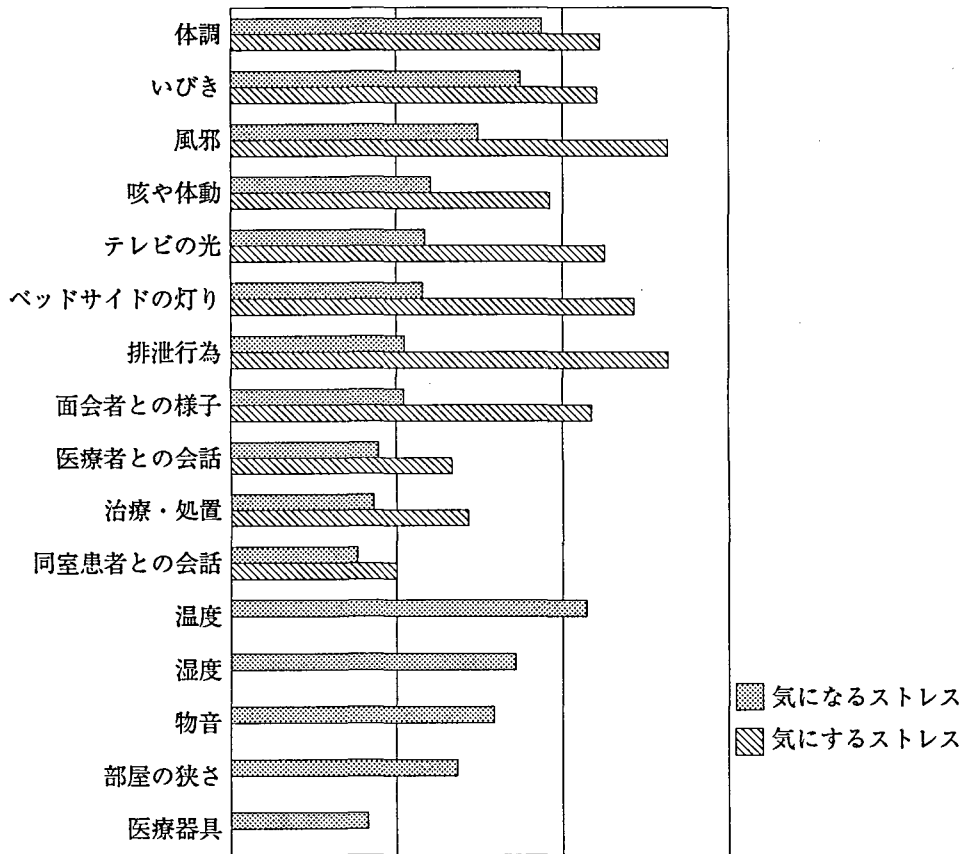


図1 生活ストレスの平均得点

表1 生活ストレスと移動制限

生活ストレス	移動器具	移動範囲	ベッド上の時間
温度			短い>長い
部屋の狭さ			短い>長い
気になる ストレス	医療器具		短い>長い
物音			短い>長い
排泄行為			短い>長い
同室者の体調	あり>なし		
ベッドサイドの灯り	あり>なし	病棟内>病院内	
いびき		病棟内>病院内	
気にする ストレス	咳や体動	病棟内>病院内	
排泄行為		病棟内>病院内	
同室者との会話		病棟内<病院内	
自分の風邪			短い<長い

p < 0.01 p < 0.05